北海道部会の部会運営

北海学園大学　宇土至心

北海道部会は、以前は年 2 回のペースで開催している時代もあったようだが、現在では年 1 回のペースで開催している。参加者としては、多いときで 6 名程度、少ないときでは 3 名程度である。古くは大学関係者だけでなく、日本銀行や道内民間銀行の実務家なども参加する研究会として運営されていたようであるが、最近では大学関係者、さらには札幌周辺の大学教員の参加に限られている。

直近 10 年間の部会活動を振り返ると、まず開催時期としては 9 月と 3 月が多く、最近では 3 月に開催することが殆どである。つぎに報告者としては、半数が札幌周辺の大学教員、半数が北海道外の大学教員となっている。また、部会として報告テーマなどは特に決めておらず、各報告者に任せられている。なお、開催会場としては、小林真之先生のご尽力のおかげもあり、引き続き北海学園大学で担当することが殆どである。

なお、2020 年 2 月以降の新型コロナウイルス感染拡大を受けて、2020 年度から 2022 年度までの 3 年間は部会が開催できなかった。理由としては、北海道は他の地域に比べて緊急事態宣言の発令が早かったこと（2020 年 3 月）や、参加者の中には大学を退官された先生やオンライン会議への対応が難しい先生が複数いたことが挙げられる。そのため、感染がある程度落ち着いた 2023 年 3 月になって、4 年ぶりの開催が実現できた。

これからの部会開催を考えると、やはり会員数および報告者が少ないことが大きな問題である。その理由としては、北海道内の大学が少ないこと、北海道という広大な地域を管轄エリアとしていること、大学院生などの若手の参加や入会がないこと、などが挙げられる。特に学会活動の中心となることが期待される国立大学（北海道大学など）の、部会への関与がないため、報告希望が集まらず、そのことは大学院生などの報告希望がないことにも影響していると思われる。一方で、これまで部会開催に尽力頂いた先生方の多くが退官や金融学会の退会をなさっており、ますます部会の参加者が少なくなっている。

今後は、まずは年 1 回の部会開催を続けることで北海道部会の存続を図ることが一番の課題である。そのためには、札幌周辺以外の会員の積極的な参加や、他部会に所属する会員の招聘、若手研究者の参加などが必要であると思われる。報告希望者を増やしたり、旅費負担を軽減するためにも、報告者にお渡ししている資料作成費の増額を積極的に検討する必要がある。